

第6期船橋市運営協議会 団体支援部会活動実績ならびに申し送り事項

	令和5年度	令和6年度
団体支援部会日	第1回(2023/7/14)から第9回(2024/3/9)実施	第16回(10/12)
①市民大学との連携	受入れ団体の募集 プレゼン資料作成 9/20 マッチング会 実地体験	
②プレゼンテーションのスキルアップ	2023/9/3基調講演(サポートセンター) 11/9自己診断結果の解説	
③プロボノの調査、設立の検討	全体計画 広報・PR	2023/10/21説明会 市民団体・ワーカー夏マッチング会 1/10振り返りミーティング 2/8参加団体と懇談会
④参加団体の問題点等について情報の収集・検討	令和5年度で終了	
実施内容	申し送り事項	
1.市民大学との連携 ① ボランティア学科のマッチング・実地体験の内容は来年度に向けさらに向上を目指して取り組む(興味→参加)。26団体にのべ79名が参加。 実地体験アンケート集計結果 A.体験実習満足度:約9割が満足 B.体験した団体の対応:良い以上75%、普通を含めると97% C.体験実習団体を選んだ理由:活動内容に興味があった26%、活動場所が自宅に近い22%、社会貢献性が高い15%、時代のニーズのマッチ13% E.今後の活動に役立つと感じたか:感じる37%、大変感じる29%、分からない29%、感じない5% ※令和5年度は実地体験において、26団体にのべ79名が参加した。(マッチング参加団体はそのうち15団体) ② まちづくり学部修了生にアンケート送付、その中に市民活動情報取得の登録方法を提示 ③ いきいき学部の共通講座は、市民活動/協働、プロボノ、活動団体紹介を行う	① 6年度も2回のマッチングを実施予定。ボランティアの使命、船橋市の現状や取組みを学ぶ機会として実施する計画。 ②市民協働課はボランティア養成学科での講義及び市民活動フェアへの参加も授業の一環とし、いきいき学部共通講座での講義も予定している。 ③ボランティアへの呼びかけと共にプロボノワーカーへの案内の機会として有効な場であることから、引き続き市民大との良好な関係づくり、連携は重要と考えている。 ※その他 令和6年度より市民大学の運営は「公益財団法人 船橋市文化・スポーツ公社」に委託。	
2.団体のスキルアップ 9月3日に認定NPO法人藤沢市民活動推進機構理事長(手塚明美氏)による講演会「ボランティア・市民活動の新しいカタチ」で17項目による自己診断設問が提示され、後日3団体が診断結果を提出、11/9にZoom会議で手塚講師から自己診断に関する説明と解説を受け、各団体で運営等に役立てる方向で終了する。自己診断の17項目は”ふなばし市民力発見サイトブログ”に投稿している。	スキルアップ(+交流会)研修 ①アンケートから運営にあたりHP作成とともに資金調達、組織運営等要望が寄せられており、スキルについて研修も必要である。 ②単にスキルアップだけではなく、他団体との交流(情報交換)が必要との意見があり、研修後に参加者が交流する時間を設定して欲しいとの提案がある。	
3.プロボノに関する検討 ① プロボノ説明会(10/21)で4団体が強い興味を示し2団体(スペシャルキッズプロジェクト、発達障害支援ネットYELL)が登録を実施。 ・支援内容は2団体ともホームページの作成、立ち上げと共通のテーマ、登録後1週間程度でマッチングが成立、12月には成果物納品、完了。 ② 1月10日”ふなボノ”主催ZOOMミーティング～スペシャルキッズプロジェクトの報告 ・経験豊富なワーカーの的確な関わりと共に、スペシャルキッズプロジェクトが団体の存在意義や使命の整理が出来ていた点とPCスキルの高さも加わりスムーズに運んだ。 ③ 2月8日 プロボノ参加団体との懇談会(スペシャルキッズプロジェクト杉尾氏、発達障害支援ネットYELL松井氏、宗形氏が参加) 参加の動機 ;説明会場が親しみのあるサポートセンターで配布チラシも良かった。説明会でHPの作成の例があった。スペシャルキッズプロジェクトはHPの重要性に気付き参加。YELLはHPを随時更新をしたいため(GoogleSitesで作成)。 参加して良かった点 ;"ふなボノ"ワーカーの方の支援、指導が良かった。疑問点は次回ミーティングで解決でき、例示が良く進行しながら学べた。HPを作成することにより会員の多数に団体内での役割分担を割振ることが出来た。組織内での改革に繋がった。 ふなボノの上原氏が適宜進捗のフォローなどをして助かった。 今後の展開 ;両団体とも次にホームページ作成講座等を企画した場合に、補助程度は可能。 その他 :市民団体間同士の交流を行いたい。	プロボノ ①昨年実施したアンケート結果ではHP作成以外にも資金調達、人員確保等の運営上の課題を抱えていることから、プロボノは有効な手段となるため今後も引き続きプロボノ実施にむけ「プロボノ説明会」やPR等行う。 ②今後の展望として、プロボノを継続することにより団体間でのコミュニティネットワークが形成(例:ミニプロボノ)され、団体間が補完しあえるような関係性構築の可能性を秘めており、各団体が自らの強み弱みを理解し、情報共有できるデータベースが必要であり、現存の市民力発信サイトでデータベースの活用が可能なかの検討が必要と考える。 【好例】 スペシャルキッズプロジェクトとサポートセンターとの関わりは、サポートセンターの「何でも相談」に来所したことがきっかけ。その後、プレゼン講習会に参加し、プロボノ説明会に参加しHPの作成を行った 【計画案】 市民力発見サイトのTOP PAGEに「サポートセンターのメニュー(項目)を作り、相談事項に誰でも対応出来る様にする。	
4.参加団体の問題点等について情報の収集・検討(令和5年度に終了) アンケートの実施・回収・集計結果:139件回収、団体代表者の年齢が70歳以上が約6割占めており、活動が停滞しているのはPR不足やデジタル化が遅れているだけでなく、組織内の世代交代や現代のニーズに合致していない可能性がある。これらの事項を踏まえスキルアップ講習やプロボノを推進する。	今後の団体支援部会の活動について ① 目標:船橋市の(登録)団体が活発に活動できるようなサポート、環境をつくる ② 現状:高齢化・人材不足を始め、新規参加者の減少、広報活動の仕方(IT活用)、資金調達、団体運営の仕方(課題整理)などの困りごとを抱えている。 ③ 方向性:市民活動サポートセンターが各団体から何かあったら相談が出来る頼りになる存在として認知されていない。またなんでも相談会の認知度、利用率も芳しくない ④ サポートセンターで相談等を行いたい場合、どなたに相談して良いかが明確でない。 ※ 頼りにされる相談窓口を目指して～相談窓口の在り方について～ ・相談者の情報の蓄積や相談体制の強化が必要 相談窓口の方向性、機能の整理等の再構築、相談者の期待に添えるよう令和6年度にも引き続き検討	